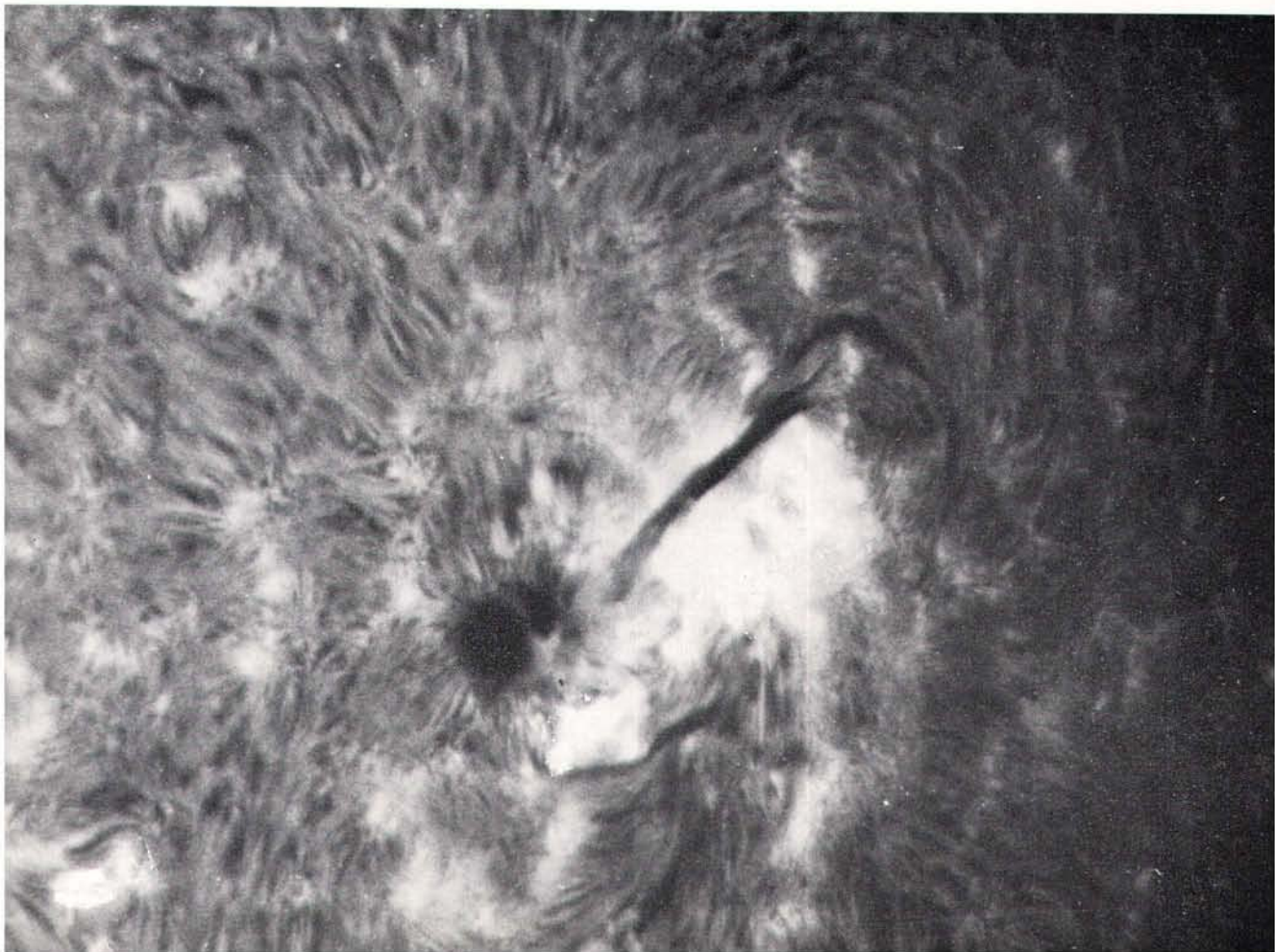
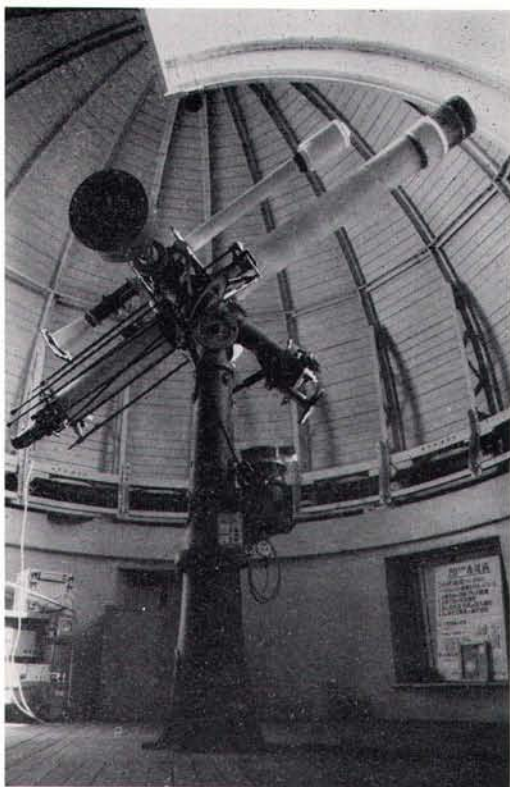


## H $\alpha$ 線 附 近 で 見 た 太 陽

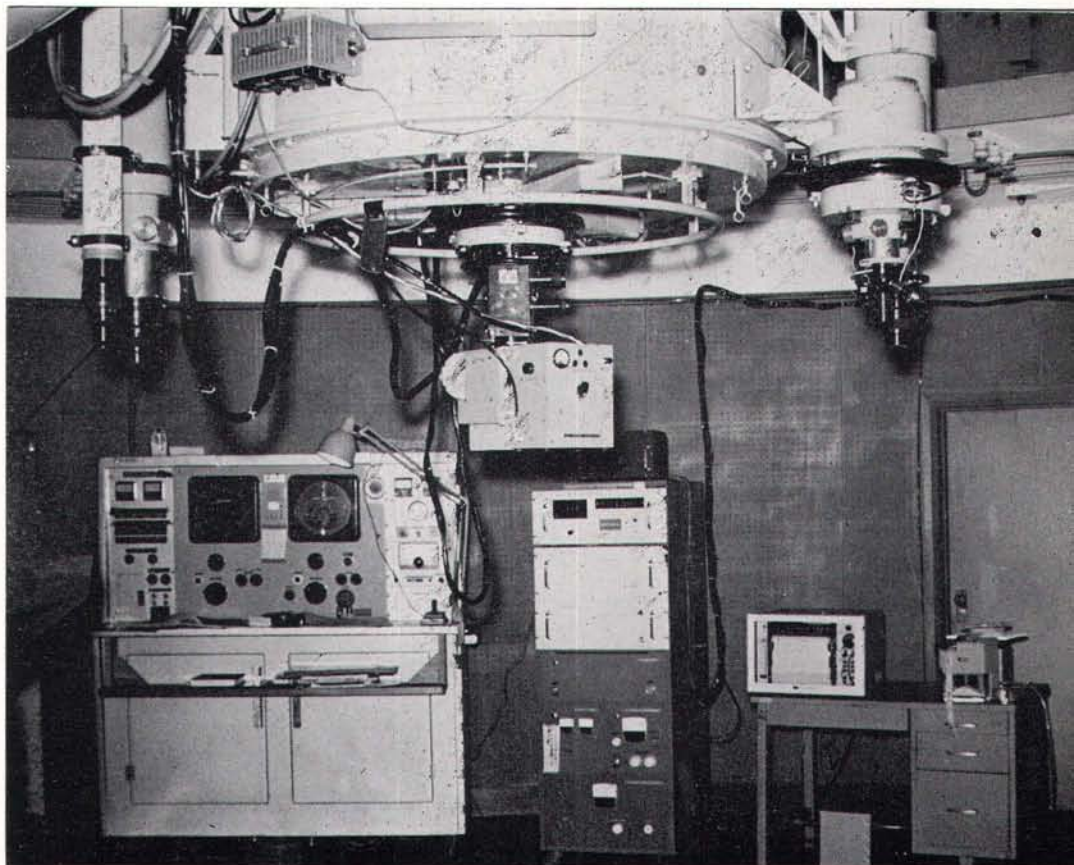
透過幅 0.5 Å のリオ・フィルターをつかって東京天文台の20センチ鏡（左の写真）でうつした太陽の写真。表紙、下、右上、右下の順に H $\alpha$  線の中心から +0.5 Å, 0 Å, -0.5 Å, -1.0 Å づつずれている。





# 光電測光の自動化

近ごろ東京天文台の岡山天体物理観測所と堂平観測所とに、光電測光のためのデータ集録装置が相いついで完成した。原理的には両者はほぼ同じ構成をもっている。光電流はFETを含む演算増幅器で増幅され、従来はこれを記録電流計によって紙の上にアナログ的に記録していたが、新しい装置はこれに並列につないで、一定時間内の電流積分値をデジタル化して紙テープに穿孔する。時刻・フィルター番号・ゲイン番号も自動的に穿孔され、そのほか星の名などを手で穿孔するための鍵盤部をも備えている。紙テープは電子計算機に読み込んで整約される。新装置の完成によって、精度の向上と整約時間の短縮が大いに期待されている。



上の写真は堂平のもので、上部(手前)は91cm反射鏡のカセグレイン焦点で、中央に受光器と増幅器ケースが見える。背景中央はデジタル電圧計・時計・穿孔制御部・各種電源がラックに収容されており、右の机の上には記録電流計、紙テープ穿孔器がおかれている。(左は望遠鏡制御盤)

下の写真は、岡山の91cm反射鏡ドーム内の昇降床上に置かれたもので、中央の上に乗っているのがデジタル電圧計、下は穿孔制御部で時計と鍵盤が見える。斜めうしろに穿孔器、右は受光器制御盤で、フィルター、ゲインなどを遠隔操作する(背景は高圧電源)。左は記録電流計である。

